

第 25 回私立医科大学理学療法学会学会誌
論文作成要領

1 原稿と印刷

- (1) 原稿は、ワープロ出力を原則とし、10 ポイントの活字を用いて、必ず余白を上下左右 25mm とって印字してください。文字は明朝体またはゴシック体をお使い下さい。また、本文の構成は二段組とし、段と段の間隔は 3 文字程度取るようにしてください。
- (2) 図、表及び写真などは、黒色で鮮明な原図を適宜縮尺して、余白 (25mm) を右辺にとった上で右詰めで貼り付けてください。
- (3) 原稿の長さは、1 題目につき原則として 2 枚又は 4 枚 (偶数枚) です。

2 邦文題目・勤務先及び発表者氏名の記載方法

- (1) 原稿 1 枚目の上辺に余白 (25mm) をとったうえ、最上段から題目、勤務先並びに発表者氏名を印字してください。原則として題目 (表題及び副題) は 12 ポイントのゴシック文字を用いて中央揃えに 1 行目を表題とし、副題がある場合には改行してください。さらに次の行から題目の活字よりポイントを落として勤務先と発表者氏名を中央揃えで印字してください。本文は発表者氏名記載の次の行からはじめてください。なお、発表者が数名の場合には中央揃えの上、できるだけ 1~2 行で収まるように印字してください。
- (2) 口述演題発表者氏名の頭には 印をつけてください。

3 英文題目及び発表者氏名の記載方法

- (1) 英文題目と発表者氏名は本文との間に下線を引き、原稿 1 枚目の下段 (最大 3~4 行) に、題目と同じ活字を用いて中央揃えで印字してください (勤務先は記入しません)。その際に、原稿下辺に余白 (25mm) があることを必ず確認してください。
- (2) 演題題目の冠詞・接続詞及び前置詞以外の単語の頭文字は、大文字にします。ハイフン (-) でつながれている場合も同様とします。副題はハイフンの間 () に印字してください。
- (3) 発表者の氏名は、First name (名) Family name (姓) の順で表します。First name (名) は頭文字を大文字、第 2 字以降は小文字で full spelling とし、Family name (姓) は、すべて大文字としてください。

発表者が複数の場合は、それぞれの発表者の後に (,) をつけ、最後の氏名は and でつながります。

英文題目・氏名の記載例

Physical Therapy of History
The Future is Road

Tarou NICHIDAI, Hanako IGAKU, and Saburou ITABASHI

4 用字と用文

- (1) 漢字は常用漢字、かなは新かなづかいとします。
- (2) 単位は原則として国際単位系 (SI 単位) を用いてください。
長さ : m、質量 : kg、時間 : s、温度 : 、周波数 : Hz など。
- (3) 略語はカッコ内に full spell で記載してください。

5 参考文献の記載方法

- (1) 引用文献は必要最小限にとどめ、本文の引用順に並べてください。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、頁 (最初 - 最後)、西暦年号の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、年次、頁を記載してください。文献の省略は公の省略法 (Index Medicus など) に従って下さい。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合は最初の 2 名を書き、他は (・他) または (et al.) としてください。

(例)

- 1) 小室 透, 間瀬教史・他 : 片麻痺の運動時皮膚温変化 . 理学療法学 18: 11, 1991 .
- 2) Hulme JB, Bach BW, et al.: Communication between physicians and physical therapists. Phys Ther 68:26-31, 1988.
- 3) 千野直一 : 臨床筋電図・電気診断学入門 . 医学書院 , 東京 , 1977 , pp102-104
- 4) Desmedt JE, Godaux E: Progress in Clinical Neurophysiology.(ed.by Desmedt JE), Vol.8, Karger, Basel, 1980, pp215-242.
- 5) 野島元雄 : 進行性筋ジストロフィー症 , 各種神経筋疾患 . 「リハビリテーション医学全書 20」上田 敏 (編) , 医歯薬出版 , 1975 , pp160-269 .
- 6) <http://www.who.int/classifications/icf/site/icftemplate.cfm>(参照 2007 05 19)

余白 25mm

見本

1/2

鉛筆書き

12ポイントの
ゴシック文字を使用

理学療法の歴史 これからのあり方について

余白
25mm

大学リハビリテーション科 日大 太郎 医学 花子 板橋 三郎

1 序説

題目よりポイントを下げる

表1 研究会比較表

	A	B	C
1990年	12	2	15
2007年	15	6	19

余白
25mm

余白
25mm

図・表及び写真は右添え

2 沿革

口頭発表者氏名の頭には必ず
印を付けてください
(単名の場合も同様)。

図1 研究会創立時

10ポイントの活字を使用

3文字程度あける

題目と同じポイントを使用

本文と英文題目との間に下線を引く

Physical Therapy of History
- The Future is Road -

Tarou NICHIDAI, Hanako IGAKU and Saburou ITABASHI

3 展望

↑
余白
25mm
↓

見本

2/2
鉛筆書き



図2 第25回学会開催時

4 結論

←→
余白
25mm

←→
3文字程度あける

5 参考文献

- 1) 小室 透, 間瀬教史・他: 片麻痺の運動時皮膚体温変化. 理学療法学 18 - 11, 1991 .
- 2) Hulme JB, Bach BW, et al.: Communication between physicians and physical therapists. Phys Ther 68:26 - 31, 1988.
- 3) 千野直一: 臨床筋電図・電気診断学入門. 医学書院, 東京, 1977, pp102 - 104
- 4) Desmedt JE, Godaux E: Progress in Clinical Neurophysiology. (ed. by Desmedt JE), Vol.8, Karger, Basel, 1980, pp215 - 242.
- 5) 野島元雄: 進行性筋ジストロフィー症, 各種神経筋疾患「リハビリテーション医学全書 20」上田 敏(編), 医歯薬出版, 1975, pp160 - 269 .
- 6) <http://www.who.int/classifications/icf/site/icftemplate.cfm> (参照 2007 - 05 - 19)

↑
余白
25mm
↓